

スーパーマーケット景気動向調査

2015年6月調査結果（5月実績）
（6月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3カ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3カ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは現状、見通し共に小幅に下降も50を上回る高水準を維持

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-0.3の54.8、見通し判断前月から-0.9の51.0となり、共に小幅な下降となったが、引き続き50を上回る水準を維持した。

経営動向調査結果では、全般に小幅に悪化しているものの前月と大きな水準の変化は見られなかった。前年落ち込みからの反発や日曜が一日多く、好天で気温が上昇したことを追い風に売上高DIが14.1(-2.2)、収益DIは9.4(-1.0)と高水準を維持している。乗客数DIがプラスを維持し、生鮮仕入原価DI、食品仕入原価DIが高止まりし、販売価格DIが二桁のプラスとなったことで客単価DIの14.2につながった。

カテゴリ動向結果では、青果DIが相場高騰の影響を受けて23.6(+7.0)と大きく上昇した一方でこれまで生鮮部門を支えていた畜産DIは11.3(-7.0)と依然として好調であるものの、やや伸び悩んでいる。惣菜DIは依然として好調であり、日配や一般食品、非食品DIもプラスを維持している。

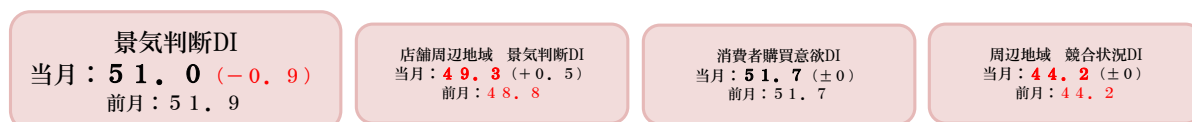
景況感調査は、周辺競合DIと周辺地域景気見通し判断DIを除いて、50を上回る水準での推移が続いており、堅調に推移している。天候や曜日並びが追い風になっている側面はあるものの、主要なDIがすべてプラスで推移しており、景況感の回復傾向は依然として継続していると考えられる。

やや慎重な見方をすれば、見通し判断DIは今月やや上昇の勢いが弱まった印象もあり、今後堅調な改善トレンドがどこまで維持されていくのか次月以降の動向を注視したい。

現状判断

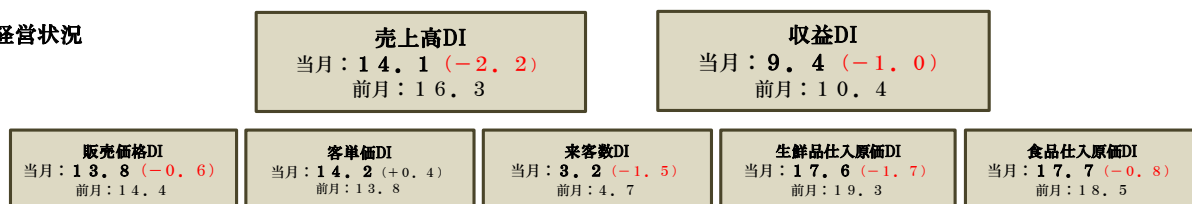


見通し判断



経営動向調査

経営状況



カテゴリ動向

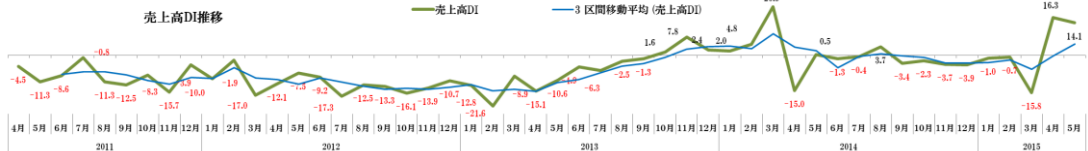
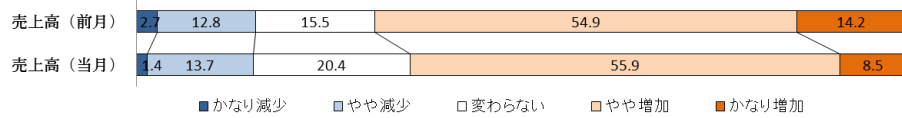


○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

6月調査（5月実績）結果詳細 I. 経営動向調査

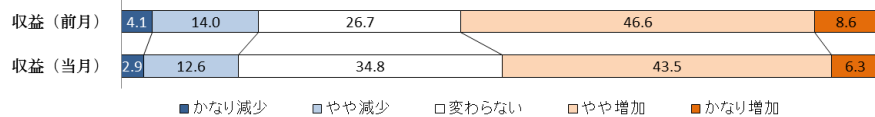
1. 売上高DI

引き続き前月からの高水準を維持



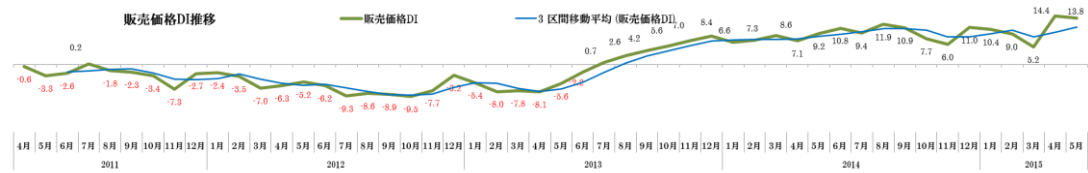
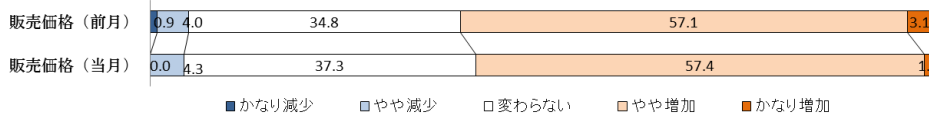
2. 収益DI

引き続き前月からの高水準を維持



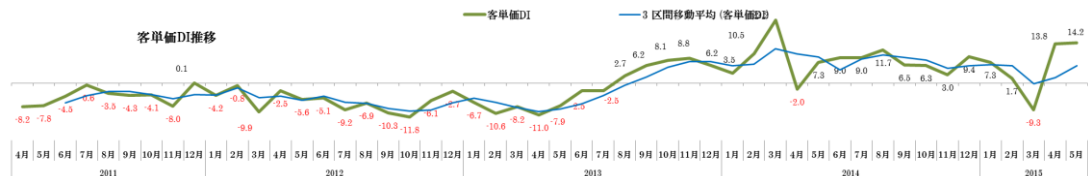
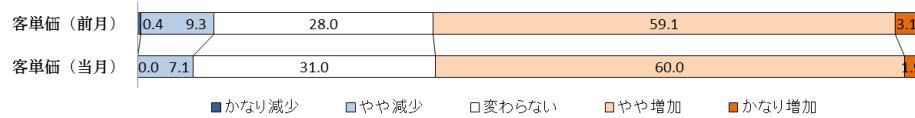
3. 販売価格DI

仕入れ価格の上昇により高水準を維持し、22ヵ月連続のプラス



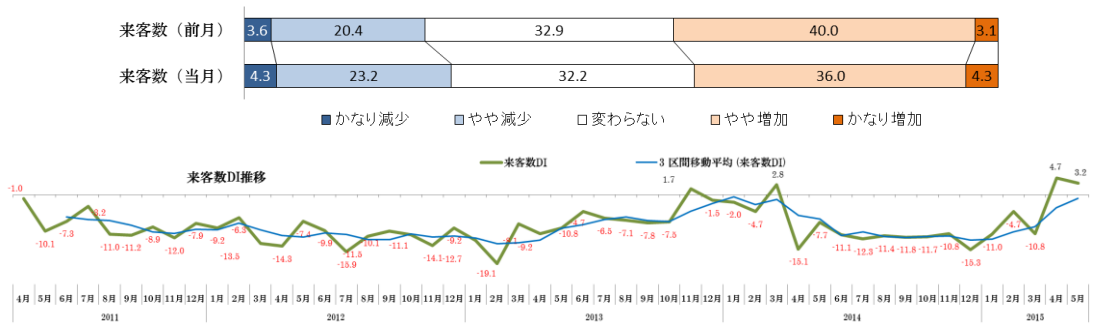
4. 客単価DI

引き続き前月からの高水準を維持



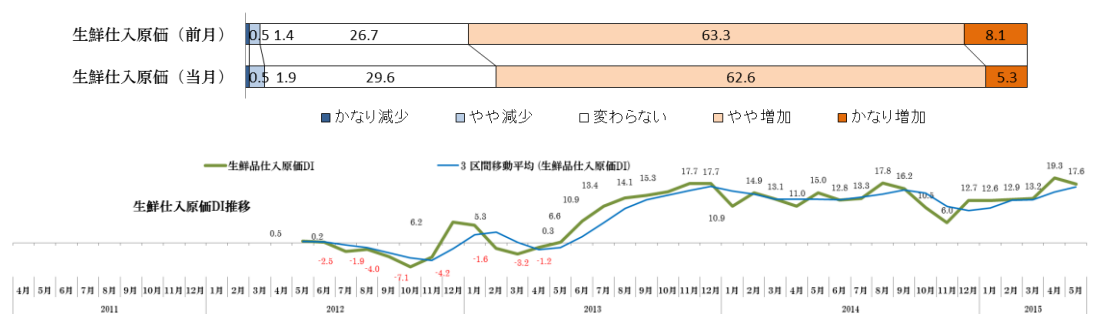
5. 来客数 DI

引き続き前月からのプラス圏内を維持



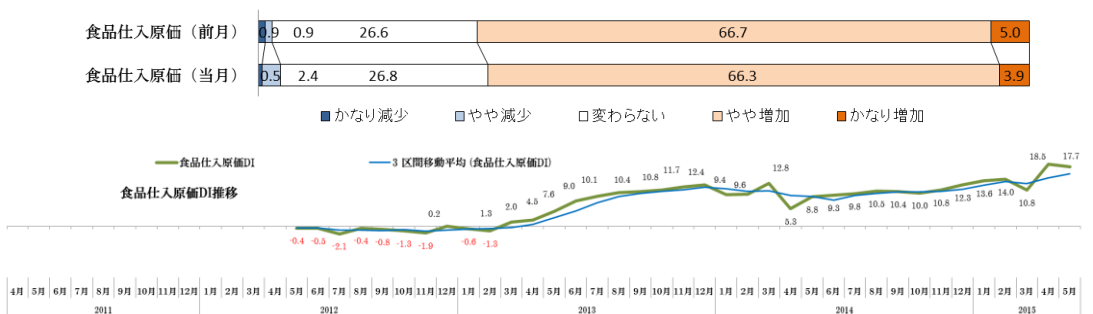
6. 生鮮仕入原価 DI

青果相場を中心とした相場高により高水準を維持



7. 食品仕入原価 DI

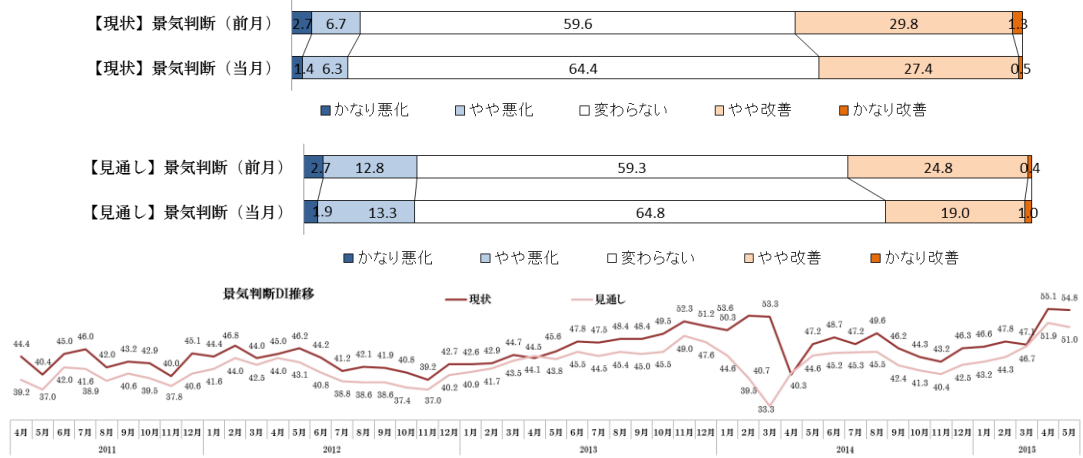
引き続き前月からの高水準を維持



II. 景況感調査

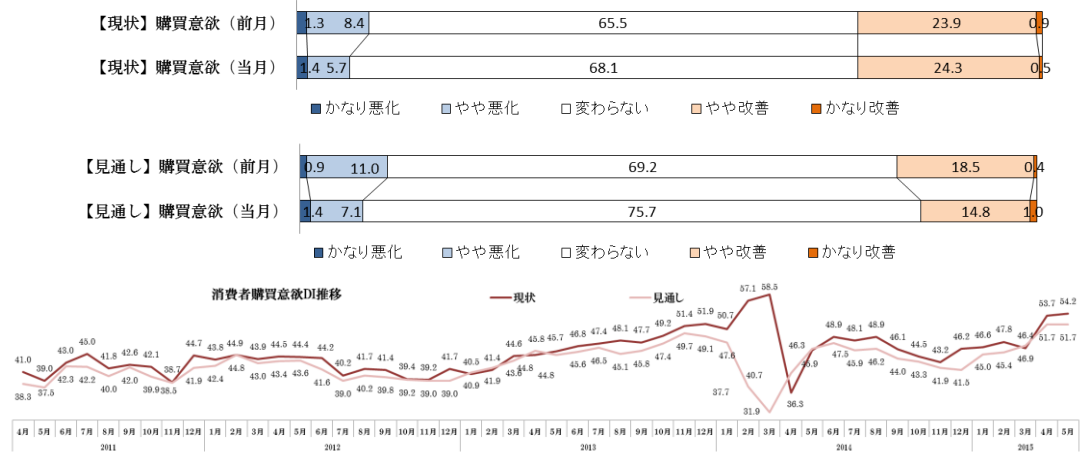
1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し共に小幅に下降も判断の分かれ目となる 50 上回る水準を維持



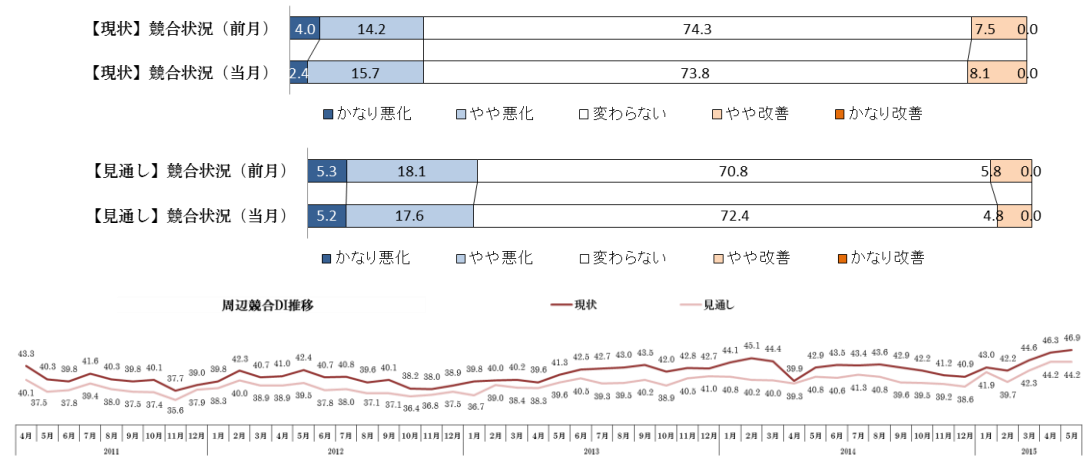
2. 消費者購買意欲 DI

現状は小幅に改善、見通しは横ばいで推移も共に判断の分かれ目となる 50 上回る水準を維持



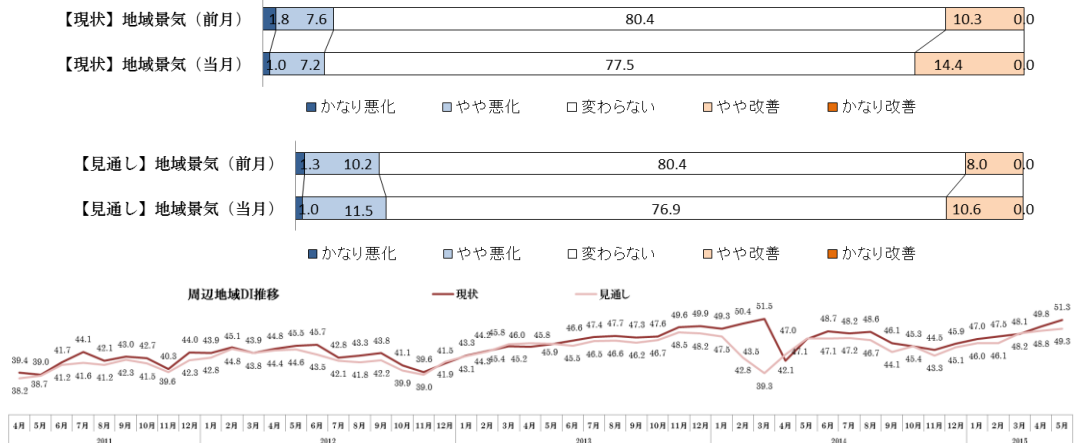
3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状は小幅に改善も見通しは横ばい推移



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

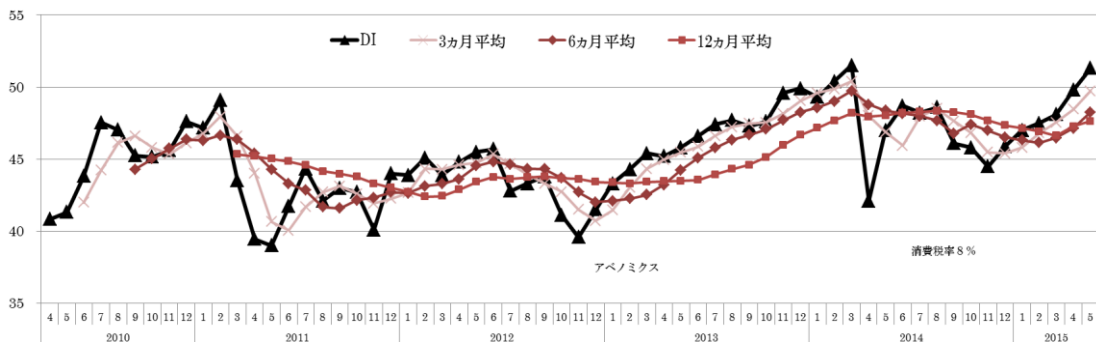
現状、見通し判断は共に小幅に上昇し、6ヵ月連続で改善をみせる



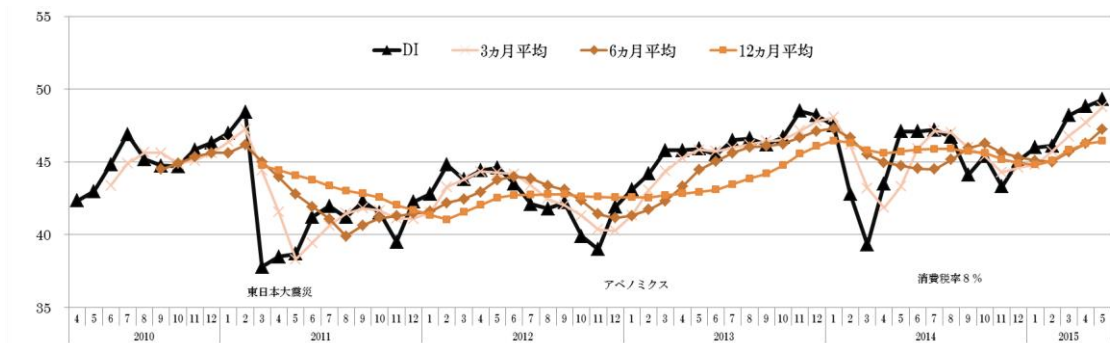
長期傾向（2010年4月～）

2012年11月以降上昇を一本調子に続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後、5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は現状、見通しともに6ヵ月連続の改善となり、2010年の調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせており、堅調な回復を示す状況となっている。現状判断は判断の分かれ目となる50を上回った。

現状判断（中長期傾向）



見通し判断（中長期傾向）



Ⅲ. カテゴリー別動向

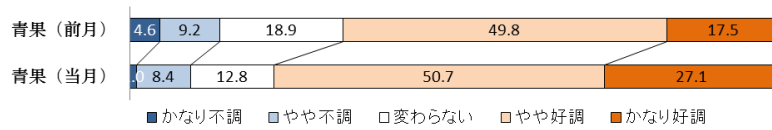
カテゴリー別動向 DIによる好不調判断

かなり好調：20以上・好調：10～20・やや好調：0～10

かなり不調：-20以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

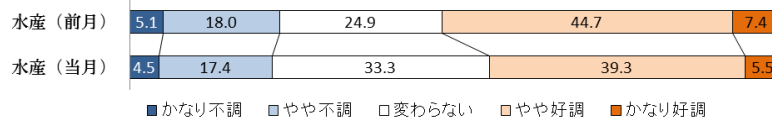
1. 青果DI：23.6（かなり好調）

青果相場（特にレタスやキャベツ）が高騰した影響で一品単価の上昇したことによりかなり好調となった。相場上昇にも関わらず販売数量を維持した店舗もみられた、一方で品薄のため商品確保に苦勞している店舗もみられた。洋菜やカット野菜、土物類を好調にあげるコメントが多かった。果物相場も輸入品を中心に高騰しているが、好不調の判断は分かれている。



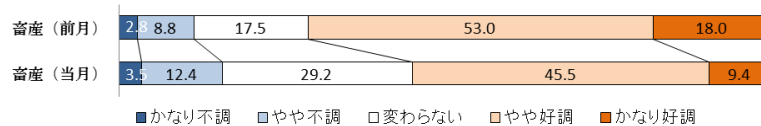
2. 水産DI：6.0（やや好調）

引き続き相場が高い環境のなか、売場の改装やレイアウト変更など、新商品開発などの成果で好調となったとするコメントが多くみられた。塩干類や気温の上昇とともに生食や刺身類、うなぎなどを好調にあげるコメントが多く、かつおは不調との指摘もみられた。



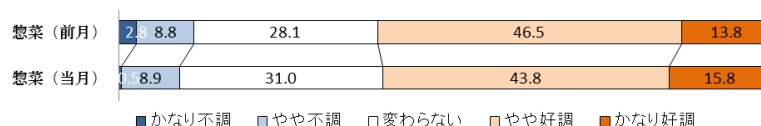
3. 畜産DI：11.3（好調）

精肉相場が高い状況が続いており好調となっている。これまで好調であった牛肉に代わり、しゃぶしゃぶ用等の豚肉を好調にあげるコメントが多かった。また日曜日が一日多いことも追い風となった。加工肉については不振を指摘するコメントが多くなっている。



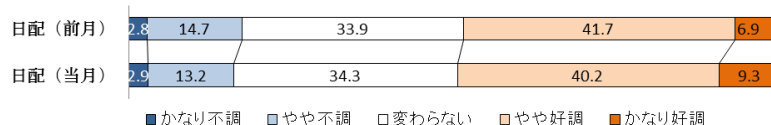
4. 惣菜DI：16.4（好調）

新メニューや夕方出来立ての提供の取組みが成果を出していることに加え、客数が前年に比べて増加していること、GWの天候が良好であったこと、気温上昇も追い風となり好調となった。米飯類は不調という声が多かった。また人手不足を心配するコメントも散見された。



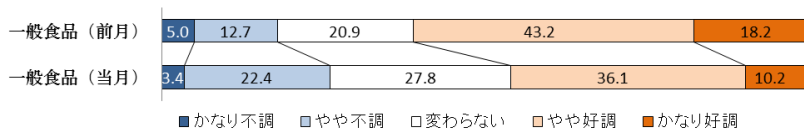
5. 日配DI：9.3（やや好調）

前年の買いだめの対象となった商品（日持ちする冷凍食品等）の落ち込みからの反発に加え、気温が上昇したことで涼味商品が好調となりやや好調となった。引き続きヨーグルトを中心とした乳製品が好調であり、気温の上昇とともに夏物涼味商品、アイスクリームやデザート等が好調であった。



6. 一般食品：6.8（やや好調）

前年消費税率引き上げ前の買いだめによる落ち込みからの反発が続いておりやや好調となった。買いだめの対象となった調味料類や酒類が好調となっている。気温上昇により飲料やそうめんなどの季節商品も好調であった。一方で米類や菓子類は不調であるとのコメントが多い。ドラッグストア等との競合の影響を指摘する声も多くみられた。



7. 非食品DI：2.9（やや好調）

前年消費税率引き上げ前の買いだめによる落ち込みからの反発が続いておりやや好調となった。気温の上昇とともに夏物商品が好調との声がある一方で、ドラッグストアを中心とした競合の影響や売場を縮小しているとのコメントも見られた。



2015年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 日曜日が一日多い
2. GW 期間好調
3. 気温上昇（晴天の日が多い）

スーパーマーケット景気動向調査

5月実績速報版集計 211社

4月実績確報版集計 226社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp